

高知新聞 7月28日

紙芝居「ビキニの海のねがい」を本にする会 「平和」を考える機会に



資料を見ながら、本のデザインや文章を話し合う
メンバー（高知市丸ノ内2丁目の高知城ホール）

1954年に太平洋・ビキニ環礁で行われた米国の水爆実験で、県内の漁船員が被ばくした事実を、子どもたちにどう伝えるか。元教員ら11人でつくる「紙芝居『ビキニの海のねがい』を本にする会」は、4年前に製作された紙芝居を本にし、来年3月の発刊を目指して準備を進めている。

実験で海上に煙が上がる様子や汚染されたマグロを食べたりする船員の生活などを描いた紙芝居。一人一人が手に取りやすい形にし、「学校で教材として活用してもらいたい」と

メンバーは期待を込める。

製本は、紙芝居製作グループの代表を務め、昨年亡くなった橋田早苗さん（香南市）の夢だったという。県美術家協会会長で元小学校長の森本忠彦さん（83）による作画はそのまま、英訳や当時の補足説明などを追加。子どもから大人まで読める内容にこだわっている。

西内義人事務局長（67）は「県内にも被害者がいることを知ってもらい、平和について考える機会にしてほしい」と話している。

（玉置萌恵）